

地域支援だより

きらりNet



令和8年2月2日

第150号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

一般就労を目指した取組 ～秋田きらり支援学校の事例～

高等部3年生になると、卒業そして社会人としての生活が目前に迫ります。一人一人のニーズに応じた進路先の中から、本稿では、一般就労を目指すAさんの事例を紹介します。

Aさんは右半身機能の障害があり、ほとんどの活動を左手のみで行っています。希望する職種への進路実現を目指し、経験→評価→改善を繰り返す中で、自己理解を深め、諦めずに現在も挑戦を続ける生徒です。これまで取り組んできた学習内容の一部を紹介します。



高等部3年
Aさんの思い

- 自分の好きなことや得意なことを生かせる仕事がしたい。
- パソコン入力や事務補助などの仕事に興味があり、練習や工夫をすることで自分でもできるかもしれない。
- 右半身機能のまひがあるものの、工夫しながら両手を使って作業しようと努力する姿勢・忍耐強さが自分の強み。

朝学習（1校時：日常生活の指導）

■事務や事務補助のスキルアップを目指し、現場実習で経験した業務内容を、毎日の学習活動に取り入れました。主な内容は、パソコンのデータ入力（写真①）、郵送作業、資料のコピーや帳合です。継続した取組により、作業スピードや効率が上がり、就労に向けた自信につながりました。

日本語ワープロ検定や情報処理技能検定にも挑戦

写真①



写真②

右肘で台紙を押さえて



写真③

掲示物の製作作業

校内実習・現場実習

■校内実習では、郵便物の折り込みや封入、ラベル貼り、テプラ入力等の事務作業（写真②）に取り組みました。締め切りから逆算して作業のペース配分を考えるなど、スケジュール管理をして働く大切さを学びました。

■現場実習は、志望する病院を含めた4か所で行い、異なる環境で事務や事務補助業務の経験を積み重ねました。（写真③④）業務だけでなく、働くことを通して休憩をしっかりとることの大切さを実感し、これまで苦手だった水分補給を自分から行うようになりました。

■現場実習中は、卒業後の生活を想定して自力通勤にチャレンジしました。家族送迎からスタートし、段階的に路線バスの利用に移行しました。休日も路線バスを利用した外出をするなど余暇の充実にもつながっています。

郵便物の計量作業

写真④



自立活動（週 1 時間）

- 得意なこと（ハンドメイド）を動画に撮り、自己肯定感を高めて、自信とやる気の向上に努めました。動画は、志望する進路先にも見ていただきました。
- 現場実習（病院事務）の課題を受けて、医療用語の単語帳（写真⑤）を自作して知識を増やしたり、電話対応のロールプレイング（写真⑥）を行ったりしました。
- 就職面接試験を想定し、ウェブマップを活用して自分の考えを伝えられるよう練習したり、進路先の概要や沿革などを調べたりしました。「なぜここで働きたいのか」をより明確にする機会となりました。

（文責：武田 奈穂）

職業科（週 2 時間）

- テキストを活用して、自己理解や働くために必要な力、社会人の生活について学びました。
- 健康管理や身だしなみ、掃除や簡単な調理、余暇の充実やICT活用など、日常生活力を高める内容を実践しながら学びました。



写真⑤
医療用語を勉強するための単語帳



写真⑥
基本マナーや受け答えの練習

肢体不自由特別支援学級における進路学習

～由利本荘市立由利中学校の実践：担任 畠山 裕佳 先生～

毎年、たくさんの肢体不自由・病弱特別支援学級を訪問する中で、中学校の話題の中心は「進路」です。主体的な進路選択に向けて、本校のセンター的機能を活用し連携して取り組んだ由利中学校における進路学習について紹介します。

中学3年：Aさんの希望



高校に進学したい。
将来はコンピュータを使った仕事がしたい。

担任の畠山先生は、2年生のときから市の学校間連携コーディネーターの協力の下、高校を見学したり、地域の特別支援学校の見学会に参加したりと、計画的に進路学習を進めてきました。3年生になると、高校の体験入学、特別支援学校の教育相談及び体験学習に参加し、それぞれの学校の良さや違い等の理解を深めました。

Aさんの心配事・・・

ふだんは明るく何事にも一生懸命取り組むAさんですが、自分のように体の不自由さを抱えている人

が身近にいないことから、「自分は出来ない」という自信のなさや孤立感を感じていました。

友達と自分を比較して、「自分だけ・・・」という思い、悲観、イライラ



センター的機能を活用した情報提供

いよいよ志望校を決める学年となったAさん。今回の学校訪問に当たって畠山先生と相談し、「秋田きりり支援学校の卒業生の暮らし」をAさんに紹介する授業を行うこととしました。畠山先生は、授業を通して次のようなことを学んでほしいと考えました。



- ・前向きに自分の障害と付き合うための考え方（セルフコントロール）
- ・趣味を生かした余暇の楽しみ方

当日の授業



スライドを見ながら
授業に臨む様子

Aさん
職場を決めた理由
「パソコンを使った仕事したい！」
→地元の市役所で働くことを希望していた。
高等部に入学したときから言っていた。

採用までの流れ
公務員試験に不合格 → 職場探しと実習 → 卒業式終了後の採用
やっぱり事務室がある

Aさん
仕事の悩み
・パソコンの仕事は楽しいけれど、..
・お昼の調子が悪い時に集中しにくい。
・周りの声を勝手に感じる時がある。(通称)
・電話対応が苦手な部分がある。

どうしている？
・わからないことは聞く。
・「楽しみ」のためにがんばる。(お金が欲しい！)
・e-Supportやさるらの先生に相談する。

授業で示した
スライドの一部

授業では、本校の卒業生について、仕事を続けている人の事例、続けることが難しく進路変更をした人の事例、実際の余暇の過ごし方の事例、卒業生の暮らしから感じる「大事なこと」などを伝えました。Aさんからは「進路選択の幅が広がりました」と感想が述べられました。

その後のAさん (畠山先生より)

- コンピュータ技能を高めて就労したい!という自己の将来像をもつことができました。
- 進路実現を目指し、計画的な受験勉強につながっています。
- 3歳から続けているピアノの先生に勧められて、ボイストレーニングにも参加。この時間が、好きなこと・自信がもてること・ストレス発散の楽しみになっています。
- 保護者も前向きな気持ちになりました。

Aさんは志望校も決まり、進路実現を目指して前向きな学校生活を送っています。

願いの実現に向けて

「〇〇になりたい」願いをもっているAさんですが、身近にモデルがないことから、自信や見通しをもてずにいました。本事例はAさん自身が進路を考えるための情報を知ることを目的としました。進路実現に大切なことは、Aさんが自分で考え、関わる人と相談し、自己選択・自己決定することと考えます。

(文責:藤原恵理子)

♪ 専門監のつぶやき ♪

進路のことに限らず、子どもと相談していく際には、次のことを前提に進めていきたいものです。

支援者が陥りやすいこと

- ・「正解」を伝えること
- ・方向性を強制すること
- ・本人の意思確認なしに決定すること

支援者が心掛けたいこと

- ・本人の知らない情報や方法の、メリットデメリットを偏りなく伝えること
- ・本人の気持ちを聞きながら、整理、選択、遂行の手伝いをする

子どもよりも経験値のある大人は、子どもの未来を勝手に予想して方向性を決め、大人が妥協できる提案に導こうとします。そして意図せずとも不安を与え、無理だと分かっている動機づけを与えがちです。

「今の実力では難しいよ。次のテストで150点アップが必要だね!頑張って勉強してね(無理だと分かっている動機づけ)。」(テスト後)ほら、難しかったでしょ、だからこっちがいいよ」などと。

150点アップの事実は情報として必要ですが、「そのためにはどうするか、本人と一緒に整理し、本人が進めていくためのお手伝いをする」..そこに支援者は最大限に力を注いでほしいと願います。

今回の二つの事例は、ともに子どもの願いを真ん中に置き、子どもが主体的に学べるよう、先生たちが支援しています。その積み重ねによって「最後は自分の道を自分で決める」ことができるのです。

(文責:近江美歩)